

〔論説〕

理学療法学分野

岩月 宏泰¹⁾

1. 理学療法士のキャリア開発を支援する本学大学院

現代社会が医療に求める期待とは、思想には患者の人權の尊重を基本として生命寿命と健康寿命の差を限りなく小さくすることといえます。また、方法としては患者中心型の医療、生活圏で完結する医療の実践があげられます。そして、医療者には高い倫理観を持つこと、質の高い実践能力を併せて備えることが求められています。現状を鑑みると、医療者の意思決定は科学的なエビデンスよりも初期の教育や自己の臨床経験に基づく判断に負う事が多いといえるのではないのでしょうか。そのことを反省する上で、近年意思決定の根拠となる臨床経験や論文・研究の科学的妥当性を吟味し、エビデンスに基づいた治療を行う EBM (Evidence-based medicine) が提唱され、リハビリテーション医療においてもこの EBM を導入・実践しようとする機運が高まってきました。

実際、理学療法士の職能・学術団体である日本理学療法士協会でも急増する理学療法士が良質なサービスを提供する臨床能力を備え、また理学療法の学問的發展に寄与する研究能力を培うことを志向しています。その取り組みの一つとして、従来称号資格であった「専門理学療法士」

「認定理学療法士」を学術的・教育的側面も視野に入れた「専門理学療法士」と臨床実践に主眼をおく「認定理学療法士」の関係を構築し、新たな専門性資格へと発展させつつあります (図1)。そこでの申請要件は領域に応じた症例報告、演題発表、論文の掲載などが現時点では考えられており、本学大学院理学療法学分野ではそれらの専門性資格を将来速やかに取得できるように、症例研究及び研究活動を積極的に支援します。

2. 本学大学院の学生の受け入れ

入学者選抜は博士前期課程で一般選抜、社会人特別選抜及び外国人留学生選抜の3種類があり、博士後期課程には一般選抜と社会人特別選抜の2種類があります。博士前期課程の入学者選抜方法の社会人特別選抜については、一般選抜よりも面接の配点を高く、英語の配点を低くしており、社会人を受け入れることとしています。これは本学大学院の特色として、保健医療福祉サービスの実践者を積極的に受け入れ、県民の健康に寄与する研究・教育を学修して頂くためです。また、専門学校・短大の卒業生にも門戸を開放しており、入学資格審査の後に選

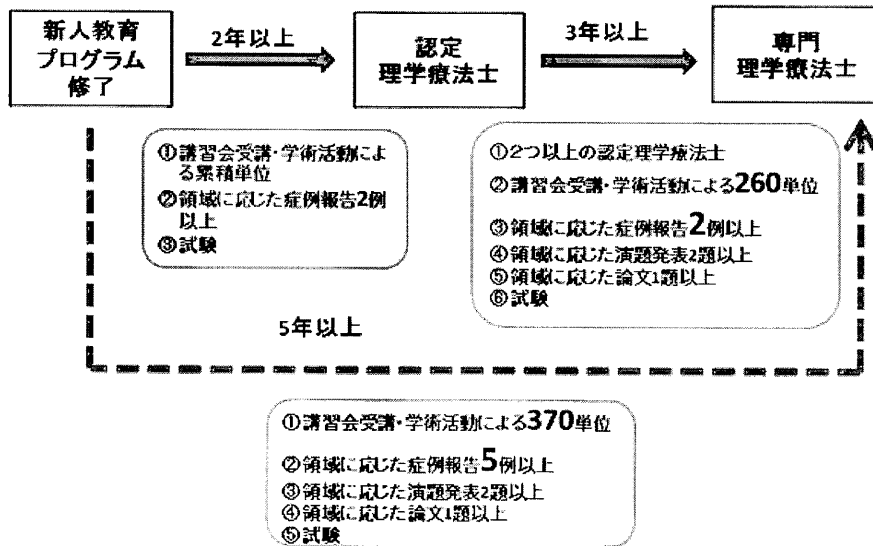


図1 専門理学療法士認定までの過程 (日本理学療法士協会案)

1) 青森県立保健大学大学院健康科学研究科健康科学専攻理学療法学分野

Department of Physical Therapy, Health Science Major, Aomori University of Health and Welfare Graduate School of Health Sciences

抜試験を受け合格すれば入学することが可能です。さらに、本研究科において特定の専門事項について研究、授業の履修することを志願する場合、選考のうえ研究生、科目等履修生、聴講生としても入学を許可しています。

なお、本学大学院に入学を希望される方は受験前に必ず専攻する領域の教員と研究テーマ、学修計画、研究スケジュールなどについて打合せを済ませるようにしてください。

3. 本学大学院の学修支援体制

本学大学院では特に社会人学生の学修に配慮し、事務局の窓口対応時間は8:30～17:45（土日、祝日は取り扱わず）、講義及び演習を昼間もしくは夜間（図2、

時限	時間
第1時限	9:00～10:20
第2時限	10:30～11:50
第3時限	12:40～14:00
第4時限	14:10～15:30
第5時限	15:40～17:00
第6時限	17:30～18:50
第7時限	19:00～20:20

図2 授業時間

第6、7時限目の設定)や土曜日、夏季・冬季休業中に開講、テレビ会議システムを積極的に用いて遠隔地でも学ぶことも支援しています。また、本学の独立した大学院生室、学内LANで結ばれたコンピュータ室などの設備も整い、図書館も所蔵雑誌、書籍の充実を図っており、大学院生は夜間12時まで使用できるなど勉強する環境が整っています。さらに、大学院生が学業及び研究に専念できるように各種奨学金の紹介、ティーチングアシスタントとしての教務補助、特別・課題研究助成費の補助なども設けています。なお、各課程で学修する際に学会参加費や物品購入に使用できる院生研究費、調査・学会出張などに使用できる旅費が申請すれば支給されますが、これらは他学に比べると潤沢で恵まれています。

4. 本学大学院理学療法学分野の博士前期・後期課程の概要

平成20年5月現在、理学療法士養成四年制大学は国公立22校、私立49校の71校あり、そのうち大学院(修士・博士課程併設)を有するものは19校(26.8%)であり、本校もそのうちの一つです。

本学大学院理学療法学分野の博士前期課程では「運動生理学領域」と「機能障害・回復学領域」の2つの領域を持ち、医師、解剖学者及び理学療法士の教員で指導します。2年間在学し修了すれば「健康科学修士」の学位を授与されます。また、博士後期課程では博士前期課程の領域でさらに研究活動を発展させることができるように

設定しており、修了すると「健康学博士」の学位が授与されます(図3)。

博士前期課程(理学療法学分野)

運動生理学領域 ・運動生理学コース ・機能形態学コース 機能障害・回復学領域 ・機能障害・回復学領域コース ・リハビリテーション・福祉工学コース	履修科目・単位数 共通科目6単位 専門支持科目12単位 専門科目4単位 特別研究8単位
---	--



博士後期課程(理学療法学分野)

運動生理学特別講義・演習 機能障害・回復学特別講義・演習 理学療法学特別研究	履修基準・単位数 必修要件4単位 選択要件6単位以上
---	---

図3 本学大学院理学療法学分野の博士前期・後期課程

本学理学療学科では脳波計、誘発筋電計、呼気ガス解析装置、3次元動作解析装置、4枚の床反力計などの計測機器、動物実験設備、機能組織学を研究するための顕微鏡などの設備を有しており、指導教員も各専門領域で精力的に研究活動を行っています。

1) 博士前期課程

2003年4月に開設され、小児から高齢者まで各年代に応じた障害の予防とQOLの向上に向けて、さまざまな社会的要請に応えうる広い視野と、リハビリテーション全般に関する専門的知識及び技術を持つ高度専門職業人の育成を目指します。さらに、理学療法学分野に留まらず、青森県の地域特性に即した保健医療福祉に係る学際的な立場から現職者の生涯学習を支援します。

(1) 運動生理学領域

①運動生理学コース

身体運動メカニズムについて生理学・運動学の広い視野から学び、運動障害について診断学的視点から解析し、運動療法を理論的に検証・研究します。

②機能形態学コース

科学的根拠に基づくコ・メディカル領域の学問的な体系化に寄与するため、コ・メディカル従事者の視点から、動物実験による実証的な方法(細胞・組織学的レベルにおける形態学的な相同・相違の解析)を学び研究します。

(2) 機能障害・回復学領域

①機能障害・回復学コース

身体機能・高次脳機能障害に対する理学・作業療法について、症候障害学的な視点から評価方法の標準化と臨床判断過程の検証方法を学び研究します。

②リハビリテーション・福祉工学コース

リハビリテーションの作用・効果を生理学的に解明し、新しいリハビリテーション・福祉機器の開発、その運用・評価法を明らかとします。また、機能障害、活動制限、社会参加の制約について、評価法、アプローチ法を研究します。

博士前期課程では平成19年度末までに12名（理学療法士10名、作業療法士2名）修了しており、その内訳は運動生理学コース4名、機能障害・回復学コース4名、生活障害支援学コース（2007年度から「リハビリテーション・福祉工学コース」に名称変更）4名となっています。下表に修了者の研究テーマを示しました。

2) 博士後期課程の概要

2005年4月に開設され、科学的根拠に基づく理学療法（Evidence-based Physical Therapy）の学問的な体系化に寄与し、自立した高度の見識と研究能力を備えた研究者、EBPTの基本概念や具体的方法を臨床場面に浸

透させることの出来る教育者及び高度実践者の育成を目指しています。現在のところ、未だ修了生はでておりません。

5. 本学大学院理学療法学分野の博士前期・後期課程における研究等のスケジュール

博士前期・後期課程における入学から修了までの研究等のスケジュールを年次ごとに図4に示しました。大学院での学修を順調に進める上で重要なのは自主的な学習態度ですが、指導教員への報告・連絡・相談を通して良好な関係を築くことも重要といえます。

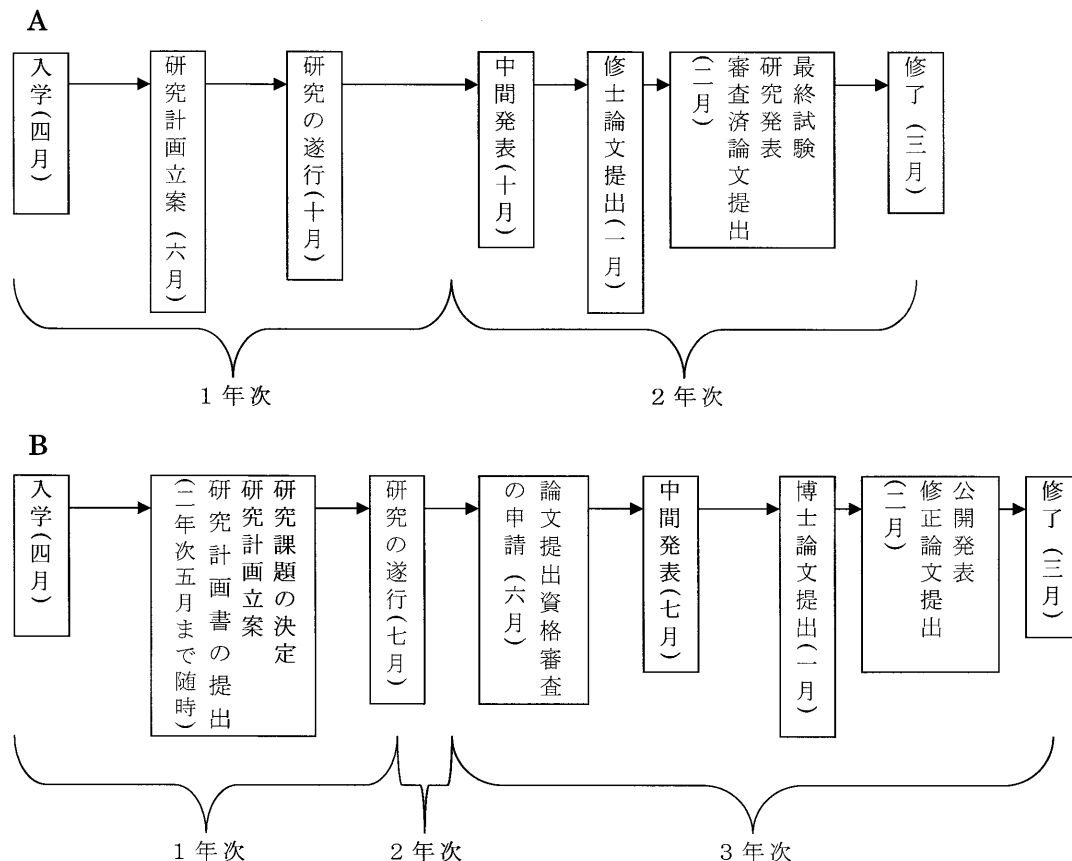


図4 本学大学院理学療法学分野の博士前期課程(A)・後期課程(B)の履修・研究スケジュール

表 平成19年度末までの理学療法学分野修了者の研究テーマ

コース	研究テーマ
運動生理学	ボトムアップ注意に伴う聴覚誘発電位の変化 聴覚刺激への注意に伴う脳電位 聴覚誘発電位の選択的注意による変化 膝関節側方への機械的刺激による下肢の筋電図変化
機能障害・回復学	関節弛緩性は月経周期により変化するか 凍結路面上での健常者歩行動の運動学的分析 脳卒中患者の呼吸代謝およびQOLからみたマシントレーニングの効果判定 運動刺激や感覚刺激が末梢血流反応に及ぼす影響—前頭葉機能の関わりについて—
生活障害支援学*	「理学療法士職場の管理運営の検討」 回復期リハビリテーション病棟を開設するリハビリテーション科の現状と課題 在宅の慢性呼吸不全者に対する日常生活活動評価表の開発 障害をもつ子どもの早期療育における家族参加の実態 標準型リクライニング車椅子の車軸についての一考察 —リクライニング車椅子を使用する高齢者の身体の特徴を知ること—

*このコースは2006年度までで、2007年度から「リハビリテーション・福祉工学コース」に名称変更